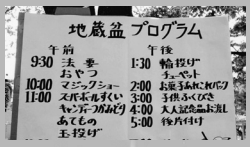

地蔵盆 プログラム
午前
9:30 法要
おやつ
10:00 マジックショー
11:00 スポボールすくい
キャンディーつかみどり
あてもの
玉投げ
午後
1:30 輪投げ
チューペット
2:00 お母子あれこれバック
3:00 子供ふくびき
4:00 大人記念品お渡し
5:00 後片付け

地蔵盆雑記

いろいろと行事のための準備には手間がかかります。手づくりで地蔵盆を、といった内容も実のところは昔からそうしたものであったわけですが、近頃はデパートあたりで何もかもセットされていて、作るより買ったほうが良いのかも知れませんが、ちょうどパック旅行のような味けなさに似て物足らなく思います。ここに行事紹介を一例として並べてみましたが、これも物足らない内容となったようですが、ヒントにでもなれば幸いです。また、お地蔵様に化粧を施す頁に関して町内によっては、彩色せずにそのまま据え置かれている所もあるので、それはそれで良いと思っています。

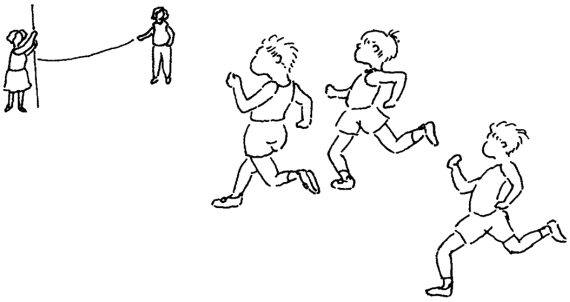
古くより日本の各地には粉掛け地蔵とか毛呂美地蔵などと呼ばれる様々のお地蔵様があって、地蔵祭りの時に、米や麦の粉をお地蔵様に振り掛けたり、生のだんごを塗りつけたりした所もあったそうです。おしろいを塗って化粧するという風習は、子ども達と遊ぶことの好きなお地蔵様が一番喜ばれる事なのかも知れませんが。

◘ 地蔵盆催事例

- おつとめ（読経）
- 百万編（珠数まわし）
- 金魚つり
- カニつり
- 風船つり
- マンガ映画会
- 人形劇
- のどじまん（カラオケ大会）
- 西瓜割り（鐘たたき）
- ふごおろし（福引の際に催す仕掛）
- UFOおろし（ふごの代用に乗り物の玩具を使う）
- ふうせん福引
- 矢投げゲーム
- 輪投げゲーム
- チビッ子競走
- クイズ・ゲーム
- 紙芝居

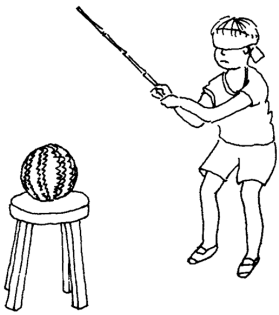
チビッ子競走

ちょっとした広場でやります。
幅とび、ケンケン競走、石けりなど
いろいろあります。
勝っても負けても…もちろん
もれなく「おやつ」のごほうび、です。



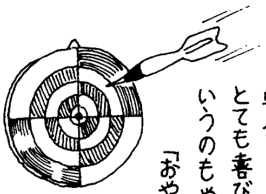
すいか割り

これは、やってみると 実に面白いです。



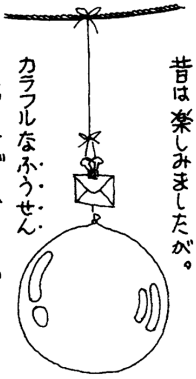
矢投げゲーム

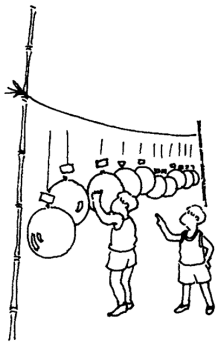
安全にさえ気を配れば、子どもたちは
とても喜びます。昔、吹き矢なんて
いうのもやっていましたよ。
「おやつ」に工夫して下さいね！



ふうせん福引

「ふごおろし」という福引方法で
昔は楽しみましたが。
カラフルなふうせんを吊り下げて、その先に
当り番号の入った封筒を付けて
おく。数人づつで取りに行かせて、
ゆっくりと選ばせてやるものです。





珠数まわし

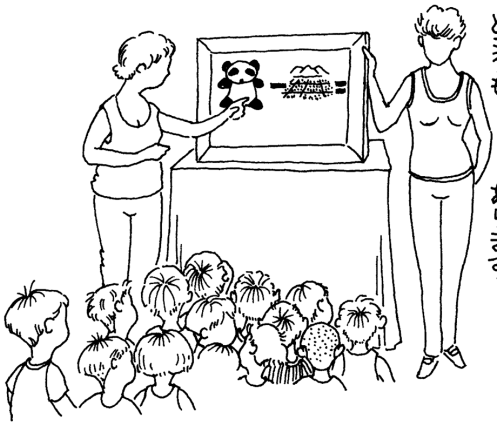
大きな珠数を回して、子どもたちでなむあみだぶつを唱えながらすごすのです。百万遍（ひゃくまんべん）という呼び名で親しんでいました。

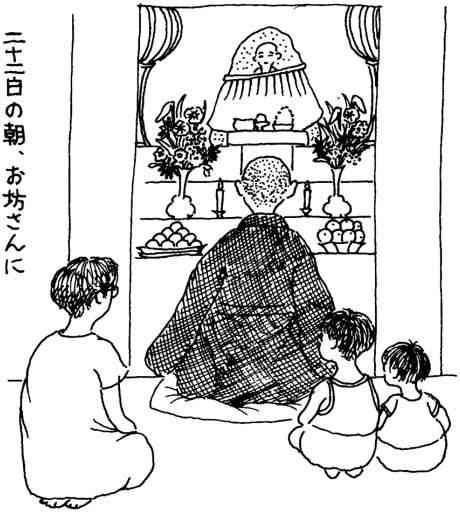
輪なげゲーム

ノートやエンピツなどの文具品などを並べて、一人について三品位当たるまで投げてもらって楽しく遊ぶものです。また、一本の立ち木に投げる、ふつうの輪なげゲームも面白いと思います。

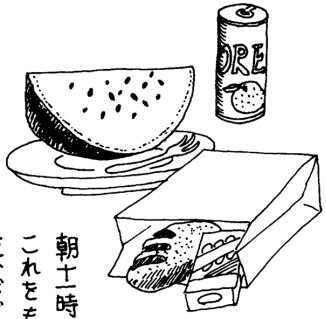
ママさん紙芝居

これはお母さんたちでやる紙芝居です。クイズ紙芝居など、物語りもやります。手づくりもあれば、借りて来てやっているところもあります。





二十二日の朝、お坊さんに
おつとめを願います。でもね
子どもたちの心は、すでに
おやつは何かな？ってところ。



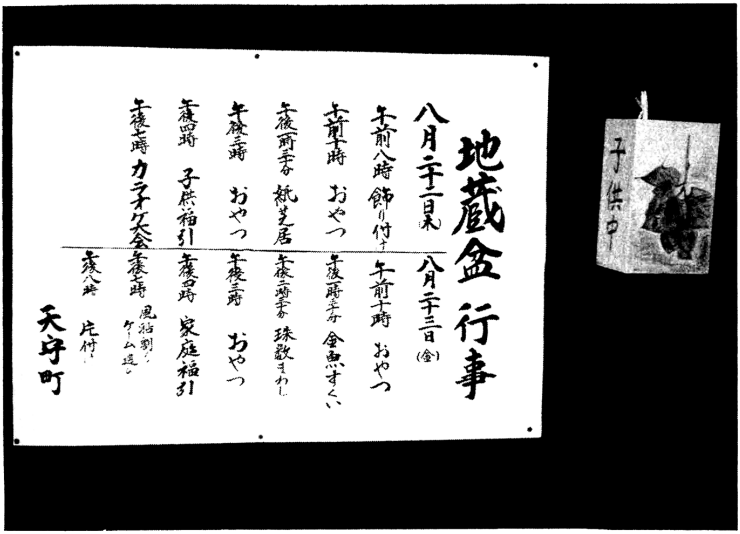
朝十一時、いよいよおやつです。
これをもらうと、地蔵盆の
気分がグンと もり上がるのです。

最近は、デパートでカニを売っています。
金魚すくいなども、みんなで楽しめる
人気のイヴェントであります。

※ 交通事情もあって、最近は盆おどりもできない町内がふえました。
代りにカラオケのどじまんが盛んなようですが、一寸淋しく思いました。

楽しい地蔵盆の催しを考えよう

イラスト・ガイド●昔も今も



行事日程は三日間位ですが、近ごろは二日間という所が多いようです。

八月二十二日

朝七時～八時　飾りつけ（お供え・準備など）
十一時　おつとめ（僧侶による読経）
昼二時　おやつ
三時　かにつり又は金魚すくいなど
夜七時　おやつ
のどじまん大会
※所によって観光バスで、夜のタ涼み

◘

二十三日

朝十時　おやつ
十一時　珠数まわし（百万遍）
昼一時　西瓜わりなどのゲーム
三時　ママさん紙芝居・クイズなど
五時　福引
夜七時　盆おどり

※以上が標準的な行事内容です。

4 場所を決めたら飾りつけましょう

地蔵盆を行なう場所が決まると、まず初めにお地蔵さまを据える位置を定めて、そこへできれば三、四段位のひな段を作ります。ひな段には赤いもせんをしきます。花やお供えものは、下図のようにお荘厳すればよいでしょう。お仏飯やお水、おもちなどは上段にお供えします。一般的には、その他、季節の果実もお供えします。また昔から町内のお年寄りなどが自宅で煮たいもやかぼちゃなどを自由に持ち寄って来るという、ほほえましい風景は変りません。お荘厳するために色々と道具が必要ですが、毎年少しづつ備えればよいと思います。また、福引用の品ものも、回りに飾って楽しい期待感を子どもたちと味わってみるのも良いのでは。素朴な心の持ち寄りこそが一番何よりなのです。